

## 日韓国交正常化50周年記念

# チョン・ミョンフンが育てた二つのオーケストラ ソウル・フィルハーモニー管弦楽団&東京フィルハーモニー交響楽団 日韓友情『歓喜の第九』合同演奏会

2015年は日本と韓国両政府が国交を回復し50周年の記念すべき年です。

これを記念して、日韓両国の芸術文化の懸け橋でもある世界的指揮者チョン・ミョンフン指揮のもと、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団と東京フィルハーモニー交響楽団は、日韓の2都市で合同オーケストラによるベートーヴェン「交響曲第9番『合唱付』」コンサートを開催いたします（12/22ソウル公演、12/26東京公演）。

## 両国のトップオーケストラと合唱団、巨匠チョン・ミョンフン率いる 総勢約300名の音楽家たちが日韓記念年のフィナーレを飾ります。

この11月に両国の首脳会談が約3年半ぶりに実現し、日中韓の首脳会談が再び定例化されることが明言された今、東アジアの中核をなす国々が政治、経済、文化のあらゆる局面から歩み寄り、結束を深めることは必須の課題となりました。



チョン・ミョンフンは、2006年より音楽監督を務めるソウル・フィルと、2001年にスペシャル・アーティストック・アドバイザーに就任し現在は桂冠名誉指揮者を務める東京フィルの合同演奏による『第九』公演を以前から考えていたといっています。

チョン・ミョンフンは言います。

「音楽は競い合う『競争』でなく、共に創り上げていく『協奏』です。

日韓の音楽家が力を合わせて、アジア諸国間の協調を推進するひとつの音を生み出し、アジアから世界に向けて友好と平和を発信したい」

自ら磨きあげた二つの国のオーケストラが一つの舞台上で共に音楽を紡ぐことは、マエストロ・チョンの言う『協奏』の一つの実現であり、「日韓友情年2015」の標語「共に開こう、新たな未来へ」、そして日中韓首脳会談での「歴史を直視し、未来に向かって進む」という精神を体現するものです。本公演は日韓の共同制作により「21世紀はアジアの時代」を印象付けると同時に最高の文化使節としての役割を果たすことを目指し、官民一体となりオールジャパンで創り上げる、日韓国交正常化50周年記念のファイナルを飾るコンサートです。

## 人類愛と歓喜のメッセージを完璧に表現した ベートーヴェン最高の傑作交響曲第9番『合唱付』

ベートーヴェンの交響曲第9番『合唱付』には「すべての人間は兄弟になる」という歌詞があります。苦悩を超えて友愛を歌い歓喜へと至るこの音楽を、日韓の芸術家が協調し、交わりあって作り上げる本公演は、アジアから世界に向けて友好と平和を祈る、かつてない深い感動を呼ぶものとなるでしょう。

### 日韓友情「歓喜の第九」合同演奏会 公演概要

■ 日程：2015年12月22日（火）20時開演 / 世宗文化会館（セジョン文化会館）  
2015年12月26日（土）14時開演 / Bunkamura オーチャードホール

■ 指揮：チョン・ミョンフン  
独唱：ホン・ジュヨン（ソプラノ）、山下 牧子（アルト）  
キム・チャールズ（テノール）、小森 輝彦（バリトン）  
演奏：ソウル・フィルハーモニー管弦楽団  
&東京フィルハーモニー交響楽団合同オーケストラ

#### 合唱：歓喜の第九特別合唱団

ソウル公演：ソウル・メトロポリタン合唱団、アンニョン市立コラル、ソウル・モテット・クワイア

東京公演：新国立劇場合唱団、藤原歌劇団合唱部（合唱指揮：河原哲也）、  
東京韓国学校児童生徒選抜メンバー（指導：裊 恩卿）、  
多摩ファミリーシンガーズ児童合唱メンバー（指導：高山佳子）

■ プログラム：ベートーヴェン 交響曲 第9番『合唱付』

■ 主催：東京フィルハーモニー交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、  
SBSソウル放送、世宗文化会館

■ 共催：東京公演 / 独立行政法人 国際交流基金

■ 後援：ソウル公演 / ソウル市、文化体育観光部  
東京公演 / 外務省、駐日韓国大使館 韓国文化院、  
一般社団法人 日韓経済協会、一般社団法人 九州経済連合会

■ 協力：東京公演 / Bunkamura

本件に関するお問合せ 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 松田亜有子、伊藤 唯  
TEL 03-5353-9521 FAX 03-5353-9523 Email [press@tpo.or.jp](mailto:press@tpo.or.jp)  
〒163-1408 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー8F

## 出演者プロフィール

### ◇ 指揮 チョン・ミョンフン Myung-Whun Chung

東京フィル 桂冠名誉指揮者／ソウル・フィル 音楽監督



韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校とジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー・コンクール ピアノ部門で韓国人では初の準優勝を果たし、その後、ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者となる。

ヨーロッパのトップクラスオーケストラとの定期演奏会に続き北米オーケストラの客演指揮者として活躍し、1986年『シモン・ボッカネグラ』でニューヨーク・メトロポリタンオペラ・デビュー。イタリアの評論家が選定する‘Premio Abbiati 賞’と‘Arturo Toscanini 賞’を受賞するなど外国人指揮者としては前例のない関心と激賞を浴びた。

1989年パリ バスティーユ・オペラ音楽監督在任の際、『トロイアの人々』が世界の音楽界から絶賛され、さらにフランス劇場および評論家協会が選ぶ“今年のアーティスト”に選ばれ、1992年には彼の貢献を称えるフランス政府のレジオン・ド・ヌール勲章を受けた。

1990年よりドイツ・グラモフォン専属アーティストとして活躍しながら世界的な賞を次々に受賞。その代表的な作品としてメシアンの『トゥーランガリラ交響曲』『彼方の閃光』『キリストの昇天』、リムスキー=コルサコフ『シェエラザード』、ショスタコーヴィチ『ムツェンスク郡のマクベス夫人』、ストラヴィンスキーの組曲『火の鳥』、ヴェルディ『オテロ』など数多い傑作がある。

1989年から1994年までパリ・オペラ座バスティーユの音楽監督を務め、その実力を飛躍的に向上させ、世界の注目を一気に集めることとなった。その功績を讃えられ、1991年フランス音楽評論家協会から最優秀音楽家賞を、1992年フランス政府からレジオン・ド・ヌール勲章を贈られた。1995年にはフランス・クラシック音楽賞を三たび授与され、さらに年間最優秀指揮者の称号を贈られている。メシアンがチョン・ミョンフンに直接献呈して話題を呼んだ「コンセール・ア・キヤトル (Concert A Quatre)」の録音も重要な業績のひとつである。

2003年、権威あるフランス音楽評論家協会の最優秀音楽家賞を1995年に続き2回目の受賞。ピアノ伴奏者としてチェチャーリア・バルトリと共に録音した『Chant d'amour』がパリ・オペラ座バスティーユ管とのベルリオーズ『幻想交響曲』と同時にフランス日刊紙ル・モンドの優秀音盤に選ばれた。ル・モンド紙は“マエストロチョン・ミョンフンは霊的な指揮者 (Chef spirituel)”と評した。

1995年フィルハーモニア管弦楽団との来日が指揮者としての日本デビューであり、この公演は“今年の最高の演奏会”に選ばれた。彼が桂冠名誉指揮者を務める東京フィルハーモニー交響楽団との演奏など、現在に至るまでチョン・ミョンフンブームが続いている。



◇ ソウル・フィルハーモニー管弦楽団 **Seoul Philharmonic Orchestra**



70年の歴史を持つソウル・フィルハーモニー管弦楽団は2005年財団法人として独立した後、世界的な指揮者チョン・ミョンフン音楽監督のリーダーシップをもとに幅広いレパートリーを披露するなど音楽的に発展を重ねている。副指揮者チェ・スヨルと、世界的名声を誇る客員指揮者、共演者、グロマイヤー賞を受賞したチン・ウンスクが共にする定期演奏会は卓越したプログラミングと音楽的成果で韓国クラシック音楽界をリードしている。

ソウル・フィルハーモニー管弦楽団は2007年タイおよびニューヨーク国際連合本部での国連の日記念公演を始め2010年イタリア、ドイツ、チェコ、ロシアなどヨーロッパ4か国9都市のツアー、2011年エジンバラ国際音楽祭などヨーロッパの音楽祭ツアー、2012年ロサンゼルスなど北米ツアーでスタンディングオベーションとともに好評を得た。

2013年4月にはソウルと北京の姉妹都市20周年を記念して中国の国家大劇院の舞台にも上がり、2014年8月にはフィンランド、オーストリア、イタリア、英国などクラシックの本場ヨーロッパの舞台で大きな好評を得た。特に英国BBCプロムス公演は現地有力紙で最高クラスの評価と共に“深い感動を与える非常に品格ある演奏”という絶賛を受けた。ソウル・フィルハーモニー管弦楽団は2011年アジアの交響楽団としては初めて世界的クラシック音盤レーベルのドイツ・グラモフォンと毎年2枚のCDをリリースする契約を5年契約で結んだ。

2011年以降『UNSUOK CHIN 3 CONCERTOS』と『交響曲9番 (マーラー)』をリリースするなど計8枚のCDをリリースした。特に『UNSUOK CHIN 3 CONCERTOS』は世界的権威の音盤賞である国際クラシック音楽賞(ICMA)の現代音楽部門とBBCミュージックマガジンプレミア部門を受賞した。

## ◇ 東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra



1911年、日本の名古屋で創立。2011年に日本のオーケストラとして最初の100周年を迎えた、日本最古の歴史と伝統を誇る交響楽団である。現在は東京オペラシティ（東京都新宿区）に拠点を構え、メンバーは約140名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。桂冠名誉指揮者はチョン・ミョンフン。2015年4月より、ミハイル・プレトニョフを特別客演指揮者に、アンドレア・バッティストーニを首席客演指揮者に迎えた。

Bunkamura オーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会を中心とする自主公演や新国立劇場を中心としたオペラ・バレエの演奏、テレビやラジオでの放送演奏などにより全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。

1989年から Bunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京以外でも数多くの演奏活動を展開し、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との創造的、教育的な文化交流を行っている。海外公演も積極的に行い、2013年12月に韓国・大邱市の招聘により日本から唯一アジア・オーケストラ・フェスティバルに出演、2014年3月にはアジア・欧米6か国（ニューヨーク、マドリード、パリ、ロンドン、シンガポール、バンコク）を巡るワールド・ツアーを行い国内外の注目を集め、グローバルオーケストラとして位置付けられている。

### 《東京フィル これまでの韓国公演の歩み》

#### ● 2003年

・アジアツアー 指揮：チョン・ミョンフン

8/29 プサン文化センター、8/30 大邱市民会館、8/31 ソウル・アーツセンター

#### ● 2005年

・APEC 開催記念・日韓友情年 2005 指揮：オー・チュンゲン

5/11 プサン公演

・韓国オペラ公演『ナブッコ』 2005 指揮：レオルト・ジヨバンニネッティ

10/5～9 ソウル・アーツセンター

・日韓国交正常化 40 周年 日韓友情年 2005 指揮：チョン・ミョンフン

11/7 プサン文化センター、11/9 チェジュ道文芸会館、11/11 カチョン市民会館、

11/12 セジョン文化センター、11/13 インチョン文化芸術センター

#### ● 2013年

・韓国・大邱市 アジア・オーケストラ・フェスティバル 2013 指揮：大野和士

12/26 大邱市民センター グランドコンサートホール

## ◇ ソプラノ ホン・ジュヨン Hong Ju-Young



秋溪芸術大学を経て韓国芸術総合学校声楽科を卒業した。国内では中央コンクールで3位、KBSコンクール1位など多数のコンクールで優勝し実力を認められている。その後イタリアに渡りブレシア国立音楽院を卒業してレナータ・テバルディ国際コンクール、ジュリエッタ・シミオナート国際コンクール、ヴィオッティ国際コンクール、ヴェルディ国際コンクール等で優勝し2012スペイン・バルセロナで開催された第49回フランシスコ・ヴィーニャス国際コンクールで2位を獲得して世界舞台で認められた。国内ではチョン・ミョンフンが指揮をした国立オペラ団の『ラ・ボエーム』にミミとして出演してデビューした。昨年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場で『ラ・ボエーム』のミミとして活躍、“最高のミミ”として認められた彼女は現在イタリアを中心として活発な活動を繰り広げている。国立オペラ団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、大邱（テグ）市立交響楽団、大邱（テグ）オペラ際などで主演として出演し幅広い活動をしている。今シーズンはドイツ・カールスルーエ劇場で『椿姫』、上海国際フェスティバルで『Heart Sutra』という有名作曲家 Christian Jost の作品を上海フィルと共に初演する予定である。

## ◇ アルト 山下 牧子 Yamashita Makiko



広島大学教育学部を経て東京藝術大学大学院修了。二期会オペラスタジオマスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第10回奏楽堂日本歌曲コンクール、第70回日本音楽コンクール声楽（オペラ部門）入選。第1回東京音楽コンクール声楽部門第1位。第72回、第73回日本音楽コンクールでともに3位入賞。オペラ『カルメン』タイトル・ロール、『蝶々夫人』『ジュリアス・シーザー』『コジ・ファン・トゥッテ』など多数のオペラで活躍している。

コンサートでは、日本の主要オーケストラとも多数共演を続け、ベートーヴェン『第九』や J.S.バッハ「ロ短調ミサ」、ヘンデル「メサイア」、ヴィヴァルディ「グロリア」、モーツァルト「レクイエム」「ミサ・プレヴィス」、ヴェルディ「レクイエム」等のアルトソロとして活躍。2013年、ロッシーニ「スターバト・マーテル」でチョン・ミョンフンと共演。目下絶好調で次々と実績を積み重ねている。二期会会員

## ◇ テノール キム・チャールズ Kim Charles



極めて美しい声や際立って優雅な音楽性によってヨーロッパやアジアのオペラカンパニーを牽引している。韓国で数多くのコンクールに優勝したのち、静岡国際オペラコンクールで国際的な名声を獲得。ソウル国立大学、カーティス音楽大学に学ぶ。2003年から2011年までドルトムントで学び、在学中の2003年にメトロポリタン・オペラ・コンペティションで最高位を得てドルトムント歌劇場の専属テノール歌手としてキャリアをスタートさせる。

最近ではアーリンダル、ローエン格林、パルシファルといったワーグナーのヘルデンテノールやジークムント、エリック、マイスタージンガーといった役、また、『トゥーランドット』カラフのほか、台北交響楽団、ケムニッツ劇場、京都市交響楽団、福岡等でベートーヴェン『第九』等を歌っている。そのほかグノー『ファウスト』、プッチーニ3部作のリヌッチョ、『ホフマンの舟歌』『ナクソス島のアリアドネ』『カルメン』『オイディプス王』『ルル』、マラー『大地の歌』等があげられる。ヴェルディ『アイダ』『イル・トロヴァトーレ』『仮面舞踏会』、プッチーニ『トスカ』『トゥーランドット』などでも重要な役柄を演じ、批評家から“とろけるような声”“甘い声質”など評価されている。



◇ バリトン 小森 輝彦 Komori Teruhiko



東京都出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所修了。文化庁在外研修員としてドイツ・ベルリンで学び、五島記念文化賞受賞。プラハ国立歌劇場『椿姫』ジェルモン役でヨーロッパ・デビュー。

ドイツのアルテンブルク・ゲラ市立劇場専属第一バリトンとして12年間同劇場を牽引し、ヨーロッパ各地で活躍。2011年劇場総裁より小森の功績を称え、日本人初、ドイツ宮廷歌手（Kammersänger）の称号を授与された。その他、ザルツブルク音楽祭でのヘンツェ『午後の曳航』、ミラノ・トリノ音楽祭『斑女』の他、日本では『ワルキューレ』『ファウストの劫罰』『ホフマン物語』『金閣寺』などに出演。

ドイツリートや宗教曲のレパートリーも数多く、本場ドイツでも高い評価を受けている。東京でも定期的にリサイタルを開催し、テーマを定めたプログラミング、俳優を朗読に迎えてのブラームス歌曲集『美しきマゲローネ』全曲等で新しい分野とのコラボレーションの可能性を広げるなど、精力的に活動を続け、充実期を迎えた演奏は内外で高い評価を得ている。東京音楽大学教授。二期会会員